

Ⅲ 耕地の利用状況

1 夏期における田本地の利用状況

(1) 平成24年夏期（おおむね水稲の栽培期間）における田本地の利用状況をみると、水稲作付田は164万ha（青刈り面積を含む。）で、前年に比べて9,000ha（1%）増加した。水稲以外の作物のみの作付田は41万9,600haで、前年に比べて7,200ha（2%）減少した。また、夏期全期不作付地は26万9,400haで、前年に比べて6,000ha（2%）減少した。

この結果、田本地に占める水稲作付田の割合は前年に比べて0.5ポイント増加して70.4%、水稲以外の作物のみの作付田の割合は前年に比べて0.3ポイント低下して18.0%、夏期全期不作付地の割合は前年に比べて0.2ポイント低下して11.6%となった。（表13）

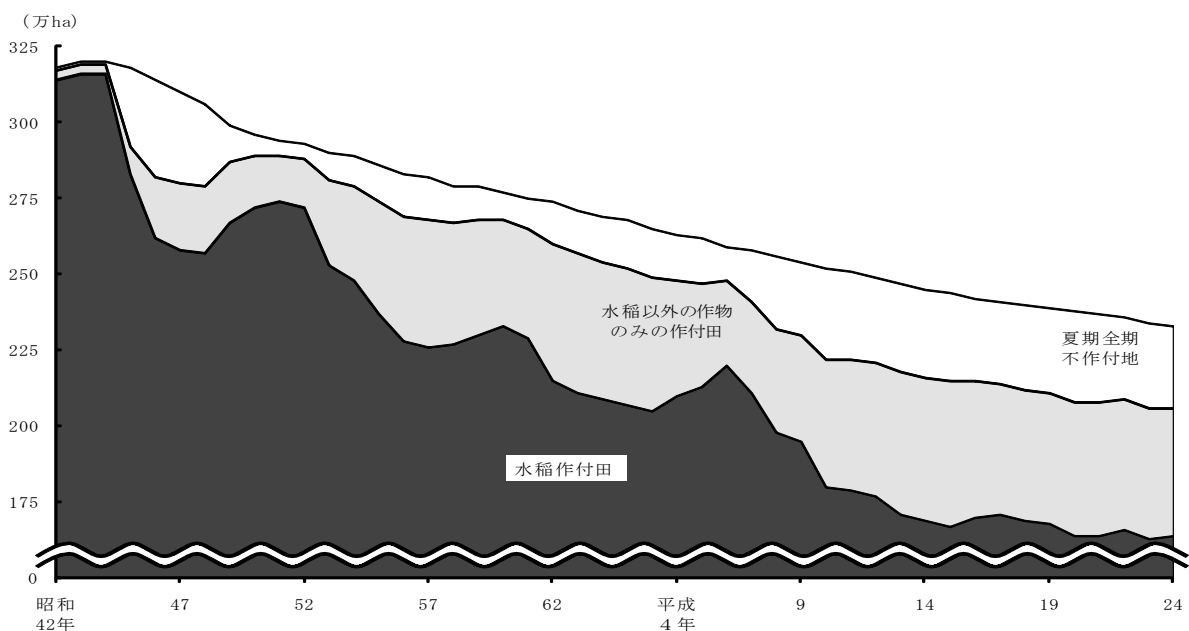
表13 平成24年夏期における田本地の利用状況

区 分	面 積	前年との比較		構成比
		対 差	対 比	
	ha	ha	%	%
田 本 地	2,329,000	△ 5,000	100	100.0
水 稲 作 付 田	1,640,000	9,000	101	70.4
水稲以外の作物のみの作付田	419,600	△ 7,200	98	18.0
夏期全期不作付地	269,400	△ 6,000	98	11.6

(2) 夏期における田本地の利用状況の動向をみると、昭和45年に米の生産調整が実施されて以降、米の生産調整面積の変動による増減はあるものの、水稲作付田は減少傾向で推移し、水稲以外の作物のみの作付田及び夏期全期不作付地については増加傾向で推移している。

（図12）

図12 夏期における田本地の利用状況の推移



2 農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率

(1) 平成24年における田の農作物作付(栽培)延べ面積は228万haで、前年並みとなった。

(表14)

これは、豆類、麦類等の作付面積が減少したものの、飼肥料作物、水稻、雑穀等の作付面積が増加したためである。

田の耕地利用率は92.3%で、前年に比べて0.2ポイント増加した。(表14)

(2) 畑の農作物作付(栽培)延べ面積は190万1,000haで、前年に比べて1万4,000ha(1%)減少した。(表14)

これは、飼肥料作物、工芸農作物、果樹等の作付(栽培)面積が減少したためである。

畑の耕地利用率は91.4%で、前年に比べて0.4ポイント低下した。(表14)

(3) この結果、田畑計の耕地利用率は91.9%で、前年と同じであった。(表14)

表14 平成24年農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率

区 分	田 畑 計				田			畑		
	作付(栽培) 延べ面積	前年との比較		耕 地 利用率	作付(栽培) 延べ面積	前年との比較		作付(栽培) 延べ面積	前年との比較	
		対差	対比			対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	%	ha	ha	%	ha	ha	%
作付(栽培)延べ面積	4,181,000	△ 12,000	100	91.9	2,280,000	2,000	100	1,901,000	△ 14,000	99
水陸稲(子実用)	1,581,000	5,000	100	34.8	1,579,000	5,000	100	2,240	△ 270	89
麦類(子実用)	269,700	△ 2,100	99	5.9	168,400	△ 2,300	99	101,300	100	100
かんしょ	38,800	△ 100	100	0.9	3,010	40	101	35,800	△ 200	99
雑穀(乾燥子実用)	62,600	4,500	108	1.4	40,500	1,700	104	22,100	2,800	115
豆類(乾燥子実用)	180,200	△ 6,000	97	4.0	117,700	△ 6,100	95	62,500	100	100
野菜	539,100	△ 2,300	100	11.9	143,900	△ 1,100	99	395,200	△ 1,300	100
果樹	240,300	△ 3,200	99	5.3	-	-	nc	240,300	△ 3,200	99
工芸農作物	155,100	△ 6,000	96	3.4	6,750	△ 1,200	85	148,300	△ 4,900	97
飼肥料作物	1,029,000	△ 1,000	100	22.6	193,800	5,200	103	834,700	△ 6,200	99
その他作物	85,600	△ 500	99	1.9	26,700	△ 200	99	58,900	△ 200	100
耕地面積	4,549,000	△ 12,000	100	nc	2,469,000	△ 5,000	100	2,080,000	△ 7,000	100
耕地利用率	91.9%	0.0ポイント	nc	nc	92.3%	0.2ポイント	nc	91.4%	△0.4ポイント	nc

注：耕地利用率とは、耕地面積に対する作付(栽培)延べ面積の割合である。

$$\text{耕地利用率(\%)} = \frac{\text{作付(栽培)延べ面積}}{\text{耕地面積(7月15日現在)}} \times 100$$

(4) 作付(栽培)延べ面積の動向をみると、昭和40年代は麦類を中心とした水田裏作の減少や、45年から始まった米の生産調整による不作付地の急増により、田を中心に大幅に減少を続けてきたものの、49年以降は麦類の生産振興による作付回復等からほぼ横ばいで推移してきた。60年以降は麦類に加え豆類等も減少し、平成10年からは米の需給調整対策の推進等から麦類、豆類等の作付けは増加したものの、総体的には減少傾向で推移している。

(図13)

(5) 耕地利用率の動向をみると、昭和40年には123.8%であったが、その後も低下傾向で推移し、平成6年には100%を下回った。平成11年に昭和59年以来15年ぶりに上昇して以降、ほぼ減少傾向で推移してきたが、平成22年は10年ぶりに上昇した。(図13)

図13 農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率の推移

